

14歳の『志』

私の将来の夢は、教師になることです。私が通っている塾の先生をみていて、そう思うようになりませんでした。今はまだ、大人になるという実感は全くありませんが、早く大人になりたいと思います。大人になるということは、やらないといけないことを最後までやり遂げられる人になることだと思います。将来、私が学校の教師として教えられるかどうか不安はありますが、塾の先生みたいに、皆からすごいと尊敬されるような人に早くになりたいです。

オーストラリアには、まだ行ったことがありませんが、パースに叔父さんが住んでいるし、カンガルーとかコアラとか、日本であまり見られない動物もたくさんいるので、いつか行ってみたいです。

笹村 ほのか さん (2011年9月で14歳) 北海道札幌市生まれ、旭川市に在住。

大人というのは、自分自身で計画が立てられて、自分のしたいことができる人のことをいうと思います。今、私は大人になるという実感が全然ありません。学期末にたくさんテストがあるのは嫌ですが、子どものままでいるほうが人生楽そうなので、できればずっと子どものままでいたいです。

将来のことはまだわかりませんが、学校の先生になって、第三世界の国々の子どもたちに何かを教えてあげられたらと思っています。私は、子どもが好きだし、お母さんと話をしているというのもいいかなって思うようになりました。だから、将来は成功して、世界の手助けができたらいいなと思っています。

オハロラン ケシ さん (2012年5月で14歳) 西オーストラリア州パース生まれ、パースに在住。

その昔、日本では成人として認められるために、14歳前後の年齢で元服や裳着などの通過儀礼を行っていました。そういった背景から一部の学校では、中学2年生(満14歳)の生徒に立志についての作文を提出させるところもあるようです。14歳が抱く『志』はどういったものか?日豪に生活する14歳の『志』を作文にて寄稿して頂きました。